

#### 4) 島前の概要(図-3、写真-2 参照)

島前は、主に3つの有人島で形成され、3島は島後とほぼ同じ規模の円形状に配置され、円の中心部には広い内海が形成されている。3島は、中ノ島(海士町  $A \div 33.5 \text{ km}^2$  2200人)

西ノ島(西ノ島町  $A \div 56.1 \text{ km}^2$  2780人) 知夫里島(知夫村  $A \div 14 \text{ km}^2$  640人)で構成されている。全体的に地形はなだらかで高さ100~200m程度の丘陵地形を呈しており、内海のほぼ中心部に「焼火山(たぐひやま)」標高408mが存在している。中ノ島北部にやや広い平野が存在し、そこには田畑があるが、その他は大部分が丘陵地であり、以前は牛・馬放牧と粟や大豆などを順番に生産する牧畑があったが、現在では放牧のみ行われている。島に分布している岩石は主にアルカリ性玄武岩である。島後が流紋岩で形成されているのに対して、島前は玄武岩で形成されたため全く違った地形となった。内海は水深30m程度の浅い海を形成しており、特に冬に荒れる日本海において静穏な海となっており、古来より良港となっている。焼火山の頂上には「焼火神社」があり、「御神火」伝説がある。古来より灯台の役割をしていたことはよく理解できる。



写真-2 島前内海と焼火山

#### 5) 旅の訪問先トピックス

(10月18日)

##### ○隠岐世界ジオパーク空港(15時30分ころ)【写真-3, 4】

小型ジェットで到着した「隠岐世界ジオパーク空港」は、広々としており、立派な門構えである。



写真-3



写真-4

##### ○隠岐自然館・西郷港(16時ころ)【写真-5, 6】、

空港からバスで15分程度、隠岐の島町の中心市街地を通り西郷港へ。設備が整ったフェリー桟橋、北前船風待ち港で栄えてきた立派な港であった。隠岐自然館は港内観光センターの2階にあり、隠岐の歴史、自然、文化、くらしのすべてが分かる。隠岐ジオパーク推進機構が運営している。1時間足らずではではとても見切れない。



写真-5



写真-6